

# 新日本歌人協会 九州・山口近県集会在阿蘇 実行委員会新聞

第4号

2013年4月28日号  
電子メール  
ohataya@gmail.com

## 皆さんありがとう

## 短歌三昧の二日間

四月二〇日から二日間にわたり開催した「第四七回九州・山口近県集会在阿蘇」は、六一人の歌人を迎え、さらに初日の講演には熊本在住の他の結社の歌人十一人の参加もあり、大盛況の内に終了することができました。

今回の集会の特徴は、歌人のための充実した二日間にするために、実行委員会で、メインテーマを「短歌」に決めて、テーマに相応しいプログラムになるよう取り組んだことです。

記念講演はもとより、懇親会での特設発表も「短歌」を正面に据えた内容にしてみようようにしました。例年と違い戸惑われた方もあったのではと思いますが、参加された皆さんから、「たいへん勉強



阿蘇に61人の歌人が集まりました クマモンも公式参加



強くなって良かった」等の感想が多く寄せられました。実行委員会一同、参加された皆さんすべてに、心よりお礼申し上げます。  
この経験を生かし、私たち熊本支部は、短歌創作にいつそうの精進をする決意を新たにしたいとこ



歓迎挨拶をする  
国宗黎実行委員長

## 嬉しいお便り、ありがとう とうございませう

参加されたみなさんから、事務局宛に嬉しい便りが届いています。そのうち、お二人のお便りを紹介します。

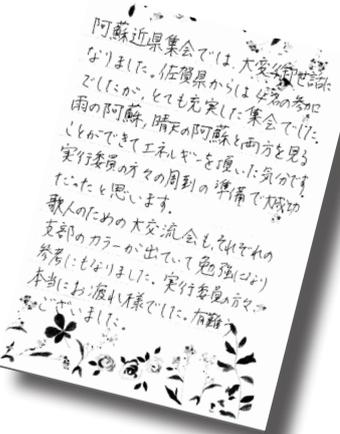
「阿蘇集会上は大変お世話になりました。佐賀県からは4名の参加でしたが、とても充実した集会でした。雨の阿蘇、晴天の阿蘇と両方見ることができてエネルギーを頂いた気分です。実行委員の方々の周到の準備で大成功だったと思います。」



雨にもマケズ吟行会に参加しました

歌人のための大交流会も、それぞれの支部のカラーが出ていて勉強になり参考にもなりました。実行委員の方々本当に疲れ様でした。ありがとうございました。」

(佐賀県の宮崎博子さんから)



宮崎博子さん、黒木直行さん、お便りありがとうございました。



黒木直行さんからのお手紙

ご協力ありがとうございました  
集会に際して、講師の松下紘一郎様、地元南阿蘇在住の歌人、清田由井子様をはじめ、たくさんの方からご厚意を頂きました。厚く御礼申し上げます。

九州・山口近県集会在阿蘇実行委員長 国宗黎

記念講演 講師 松下紘一郎さん

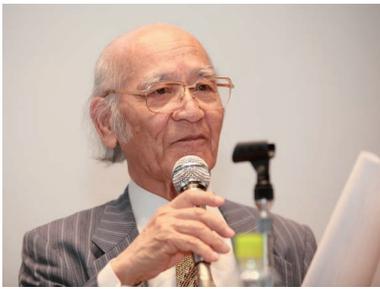
熊本県歌人協会会長

## 「現代短歌の明と暗」

現代短歌の歴史的背景から紐解いて、独自の新鮮な視点で解説された松下紘一郎さんのお話は、大変分かりやすいものでした。

現代短歌の起点を終戦と捉え、安保闘争、そして3・11を体験した現代に至るまで、その時々生まれた歌人とその作品を例に、短歌の変遷について多くのことを学んだことは、私たちが歌人としての立ち位置を考察する上でも大きな収穫となりました。

あの悲惨な大戦を歌人はどう反省し、どのように出発したか、斎藤茂吉の当事の興味深い発言も紹介されました。



講師の松下紘一郎さん



80人が参加した記念講演「現代短歌の明と暗」

### ▼宮修二と近藤芳美

同年代に生まれた二人の歌人、宮修二と近藤芳美の歌に対する「有用性」について、それぞれの考え方を鮮明に対比させ、その生き方にまで迫る分析は、先達の歌に対する真摯さがひしひしと伝わってくるものでした。

### ▼第二芸術論

桑原武夫の第二芸術論については、最初に批判の矛先とされた俳句から、次に短歌にまで及ぶ過程とその作品を挙げて、芸術的感興の有無についても大いに考えさせ

られました。

例えば、次の二首についての対比はたいへんわかりやすいものでした。

・侵略の野望がつひに国民を餓死に導く責せめなしと言ふか（渡辺順三）

・潰えゆく国のすがたのかなしさ  
を現目に見れば死にがたきかも（釈道空）

### ▼前衛・安保・学園紛争

比喻を駆使した〈前衛〉短歌の出現については、塚本邦雄や岡井隆の作品をとりあげ、やさしく解説されたので、より身近なものとして鑑賞することができました。

・革命歌作詞家に凭りかかられてすこしづつ液化してゆくピアノ（塚本邦雄・歌集水葬物語）

・〈敗北〉を易々という眼を憎み憎みつつまみれて来し安保以後（水野昌雄・歌集風の季節）

### ▼歌壇の現状

講演のテーマである現代短歌の「明と暗」のその両方を内包して

いる現状についてのお話は、私たちへの大きな問題提起となりました。また、ニューウエーブ、ライトバスと呼ばれる作品の本質を平たく解説、その文学性の疑問についても、明快な回答を得た思いがしました。

・操人形腰をおろしてゐるやうな理屈倒れの歌の哀れさよ（橋本喜典「まひる野」2013.1月号）

この作品に代表されるように、へ新しい〜と呼ばれる作風に対する強烈な揶揄も印象に残りました。

### ▼何を歌うか いかにか歌うか

多くの革新、冒険を経ながらも短歌の持つ普遍的な力はますます勢いを増しています。

最後のまとめとして、「歌から伝わるもの、驚きがあり発見があり共感を強いるもの、そして何より人間的なるもの―その文学的表現としての歌」と話された松下紘一郎さんの講演に、大きな確信と創作意欲を得た思いがしました。

(文 大畑靖夫)



右から天賞の竹山真知子さん、同点で地賞の上田精一さん、丸林一枝さん

### 一五点を集めた

## 竹山真知子さんが天賞

天賞は熊本市支部の竹山真知子さんでした。実行委員の一人ですが、得点については最後まで厳格に管理したおかげで、本人も表彰式までまったく気付かず、びっくりされていました。

次に点数が多かったのは一三点で、熊本・人吉支部の上田精一さん、丸林一枝さんのお二人が同点で地賞でした。

【天賞】 竹山真知子 (熊本市支部)

お下がりの赤きセーター着て跳ねる幼きいのちぴよんと弾んで

【地賞】 上田 精一(熊本県人吉支部)

冬枯れの梅の古木は苔むして芽吹き  
の鼓動芯に秘めおり

【地賞】 丸林 一枝(佐賀支部)

大阿蘇の野焼きの山も萌え初めん  
歌詠む友に会う旅支度

助言者のみなさんありがとうございました



Aグループ  
松野さと江さん



Bグループ  
石山隆さん



Cグループ  
寺内實さん

## 初めて近県集會に参加しました!

熊本市支部 田川清さんの  
近県集會体験記



田川清さんが参加したのはAグループ。助言者は松野さと江さんでした。

初参加でしたが、合評会(Aグループ)での一首毎の活発な意見と助言者の的確なアドバイスで、大いに今後の勉強になりました。以下、「モーゼの十戒」に倣い記してみます。

- ① 自然描写を安易に擬人法に逃げないこと。
- ② 歌は心で詠うもの。頭で差し込んで(概念)はいけない。
- ③ 歴史を詠む時、歌を総括してはならない。具体が基本。一首に言いたいことを詰めすぎてはいけない。
- ④ 瞬間を詠むのが基本、現在と過去を繋ぐのは避けたい。
- ⑤ テレビ映像等を観ての作歌はインパクトが弱くなる。
- ⑥ 内容によっては「一字明け」を用いると明瞭になる。
- ⑦ 表現に重複がないか十分な推敲を行う。
- ⑧ 表現に必然性があるか一首全体の中で考える
- ⑨ 歌が説明に流れていないか。
- ⑩



雨に烟る草千里

都合でやむなく参加が出来なかつた鹿児島支部の佐伯さんからは、美味しいデコポン、島らつきよう、あくまきの差し入れを送って頂きました。



傘により阿蘇火口ぐちのぞきこむ地球のはらわたを見るこちして

火口をのぞき込む大川史香さん



吟行会・即詠歌でグランプリ(上田精一賞)は大川史香さん



遠く静岡から参加の江川佐一さん



即詠会では熱心な発言が相次ぎました

## 見た、聴いた、語った、詠んだ! 写真で綴る近県集会

合評会で迫真のガチンコ対決!? 佐賀の関家小夜子さんと、熊本の寺内實さん



楽しかった大交流会



来年度に向け決意表明  
来年度に近県集會を開催するのは山口支部です。場所は下関になりそうとのことでした。  
みなさん、来年は山口へ集まりましょう。



書籍即販コーナーも大盛況、たくさん売りました